

## 2021 年度特定研究奨励金 報告書

### 報告者所属・氏名

所属	食生活科学科	氏名	辛島順子
----	--------	----	------

### 奨励金による研究活動・実績（具体的に記載）

高齢者を対象に以下の調査を実施した。

#### 1. 自記式質問紙調査と非侵襲的栄養状態の測定

2021 年 8 月～9 月に東京都内在住の高齢者 91 名（ $80.2 \pm 6.3$  歳）を対象として調査を実施した。調査内容は、European Health Literacy Survey Questionnaire (HLS-EU-Q47) 日本語版、主観的健康感、食品摂取の多様性得点（熊谷ら，2003）、生活習慣、MNA®-SF（ネスレ）を用いた栄養状態評価、ASTRIMFIT（シスメックス株式会社）を用いたヘモグロビン推定値測定等である。HLS-EU-Q47 によるヘルスリテラシー（以下、HL とする）の高低による分析では、HL の高い者の方が主観的健康感は有意に高く、1 日 3 食の食事を食べている者の割合が有意に高かった。HL と非侵襲的栄養状態の測定結果には有意な関連がみられなかった。

#### 2. インターネット調査

2021 年 9 月に 1 都 3 県に居住する高齢者 200 名（ $70.6 \pm 4.2$  歳）を対象として横断的な web 調査を実施した。調査内容は、Communicative and Critical Health Literacy (CCHL)、主観的健康感、日常生活の心掛け、食品摂取の多様性得点（熊谷ら，2003）、健康管理のための情報源等である。CCHL による HL の高低により、主観的健康感、生活の満足感、健康の維持・増進のための日常生活の心掛け（食生活・身体活動・休養等）、食品摂取の多様性得点、食事のバランス、咀嚼の状況、ソーシャルサポートに有意な差がみられた。HL の違いは、健康の維持・増進に関わる情報源においても差が生じており、HL が高い群は新聞・雑誌・本を使用した能動的な情報収集を行う者の割合が有意に高かった。

### ※2024.10.23 追記※

- ・実績 高齢者のヘルスリテラシーの特徴と生活習慣の関連, 2022 年 11 月, 辛島順子, 日本家政学会誌, 73, 11, 645 - 654